



図12 授業過程の位置づけ

図13は、学習内容の習熟の程度に応じた授業過程の一つのモデルです。このモデルは、これまでの学習指導→評価（総括的評価）という方法を改善したもので、評価（総括的評価）を行う前の段階で、形成的評価を取り入れ、「目標にどの程度近づいているか。」「目標達成のための学習障害は何か。」あるいは、「すでに目標に到達してしまっていないか。」といったような生徒の実態や可能性を適切に把握して第2次学習機会を設定して、生徒の実態に応じた学習指導を行おうとするものです。したがって、第2次学習機会に必要な、学習時間の配分、教材の精選や開発、学習形態の工夫、生徒の学習速度の把握などは、教師の創意工夫によらなければなりません。